

令和3年度 産山学園共通実践事項+2

- (1)単元のゴールの姿(単元デザイン)
  - (2)導入う(問いやつぶやきを引き出している・子供の言葉でめあてを立てている)
  - (3)展開ふ・や(積極的なファシリテート・思考ツールの活用)
  - (4)終末ま(子供の言葉を生かしたまとめ・自らの学びや自己の変容がわかる振り返り)
- \*効果的な場面で目的に応じたICT機器の活用  
\*学習過程が分かるように整理された板書の工夫

校内研通信

No. 5

7月21日(水)

文責: 富永

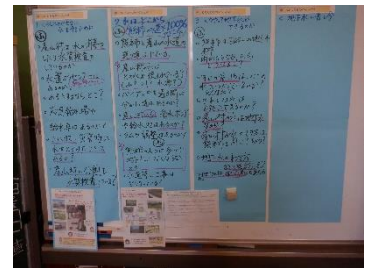
研究授業中研1st(社会)

7月14日(水) 4年生 単元名「住みよいくらしをつくる～わたしたちのくらしと水～」 授業者: 宗先生

<校内研の視点での分析>

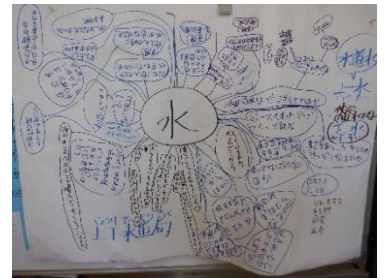
○仮説1について

学びの足跡を残されており、学習の連続性が確保され、主体的な学びへとつながっていた。また、写真やグラフの比較から、児童の問いやつぶやきを引き出し、子どもの言葉でめあてを設定されていた。授業の終末では、板書やワークシートをもとに、子どもの言葉を生かしたまとめや、「あかうしどん」の振り返りの視点から、日常生活に目を向けさせて考えさせることにもつながられていた。



○仮説2について

児童のつぶやきを積極的に拾われており、「産山村では?」という視点から常に子どもたちに思考させていた。さらに、「どこからそう考えたの?」や「どうしてそう思ったの?」といった、根拠を明確にさせるコーディネートにより、児童同士の対話が活性化されたり、思考が深まったりしていた。また、実物投影機を使い、児童の考えを視覚的に訴えたり、単元の導入ではウェビングの手法を用いて児童の考えを出しやすくしたり、児童同士の考えを関連付けたりされており、思考が深まっていった。



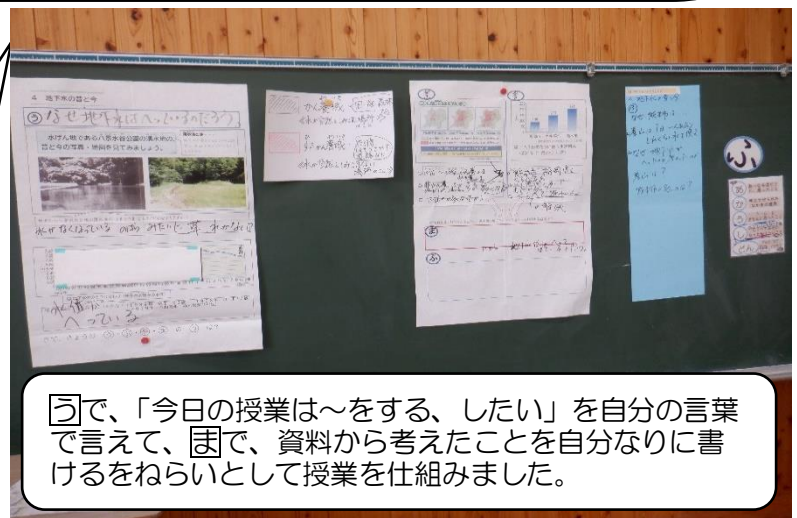
<まとめ>

今回の授業研から、子どもの学びをつなげていくことの重要性をより実感できたのではないのでしょうか。子どもの思考を積み上げていくことで生きて働く知識・技能に繋がると思います。また、今回は、社会科ということで資料の選択や提示、扱い方等の大切さを再確認させられました。子どもの思考をかき立てる資料の見せ方や提示の仕方(情報不足や情報過多など)や、子どもの思考に沿った資料の選択等、教師側が何をねらいにし、何を意識するか、日々の教材研究から考えていきたいですね。勉強させていただきありがとうございました。

【自評】

良かった点としては、学んだことを産山村に置き換える部分を積極的に行えていたことです。また、前日に1stの先生方と事前研をした際、資料提示の仕方や本単元での子どもたちのゴールをどのように考えているか等、確認できたことです。何より、授業をみんなでつくっていく楽しさを味わえた瞬間は貴重でした。

反省点としては、資料の表面上の読み取りが多く、その結果からどんなことが言え、どんなことが考えられるか、予想されるか等、導入からまとめにつながる分析力や文章表現力に結びつけられなかったことです。また、複数の資料から読み取る経験が少なかったため、機会を増やしながら慣れさせていきたいです。



うで、「今日の授業は～をする、したい」を自分の言葉で言えて、まで、資料から考えたことを自分なりに書けるをねらいとして授業を仕組みました。

宗先生、貴重な授業ありがとうございました。